

音楽科より

コロナ禍における音楽会実施の記録

音楽科主任 武田若菜

「クリスマスによる恵み(私たちの唯一の先生であり救い主であるイエスキリストが誕生され、今も共にいてくださること)に感謝して、賛美と音楽の捧げ物をしたい。コロナ感染症による様々な制限や分断で心が傷んでいる時だからこそ、生徒たちには、一緒に演奏すること、そこにそれぞれの気持ちを注ぎだす体験をしてもらいたい、また、仲間と生活できていること、守られていることを共に感謝する時としたい。」

2020 年当時のクリスマス音楽会実施に際して書いた冒頭のことばである。コロナ禍に足踏みすることなく行えた音楽の学び、音楽会について記録する。

I. 2021 年度の礎となる取り組み(2020 年度)

2020 年 1 学期、学校に生徒がいない。オンライン授業による音取り、動画作成による授業、Zoom 授業、と教育現場に初めてのことがばかりが起り、通常化していった。この状況を踏まえ、年度始めに例年行っている、対面の音楽会ができなくなることも視野に入れ、録画配信の可能性も探った。

上記の目的のため、対面授業の練習については健康管理室と相談を重ね、録画撮りしたものを配信することで準備を始めた。具体的な準備や考え方に関しては、国立感染症研究所感染症疫学センター主任研究官であり、女子部の卒業生でもある菅原民枝博士からのご助言をいただき、事前に録画撮りした映像を一堂に会して見られるように計画した。この時点では自由学園らしい教育の在り方を優先する余裕があったことによる。しかし週を追うごとに感染の拡大がみられる現状を鑑み、密を避ける席割を考え、3会場に分かれ、資料①の図のように人との距離を取って実施するなど具体的な対策、工夫が必要となった。この席割は、その後 2023 度の 5 月まで 3 年間に渡り行事に於ける基本的な座り方となる。なお 2020 年度に学部生をリーダーとした音楽会配信のための組織図や実施経過は資料として添付する(資料②、③)。

歌唱の試験は対面で行えないため、伴奏を録画したものを配信し、それをかけながら歌ったものを各自録画したものをグーグルクラスルームに送る形で行った。

II. 2021 年度の取り組みと音楽会

前年度に続き感染の拡大ピーク時期に備え、どんな状況

になっても音楽科の学びが滞ってしまわぬように、しかし安全面では前年以上に留意しつつ工夫が加えられ、意欲的に学びを進めた一年だった。4 月の歓迎音楽会も事前に収録した演奏の動画を観、弦楽合奏のみ対面で行った。

2020 年度にはフェイスシールドの下半分に布を付けたものを合唱の授業では着用していたが、ウィルスの研究が進んでくると、不織布マスクがウィルスを一番通しにくいことが分かり、歌いやすさは二の次として、合唱の授業では不織布マスクを着用し、窓を開け、授業の場所は音楽室よりも広い男子部記念ホールを使用すること、女子部もできるだけ女子部体操館を使用することで、人との距離を確保することに努めた。また器楽授業にも工夫が求められた。

1) 距離の取り方

ホールでは 1 テーブルに一人で座り、冬場でも全ての窓を 10cm 以上開けて授業を行った。因みに礼拝もこの機の配置で行ったが 1 テーブルに一人で座ることは収容人数の関係上できなかったため、讃美歌を歌うことはできなくなった。

2) 器楽授業

器楽授業の定番であるリコーダーは色々な工夫案を探ってみたが、感染予防の面からはどれも心もとないものだったため、3 月からウクレレ導入に向けてリサーチをはじめ、女子部男子部の部長に了承をもらい、保護者へは購入願いの手紙を出し、6 月下旬から生徒一人が 1 台のウクレレを持つ授業が始まった。しかし 9 月に入り感染拡大が顕著となったため生徒宅へ楽器を送り、Zoom での授業をすることとなった。この授業はかえって一人一人に目が届き、画面上全員の指先まで一度に見ること

ができるなど、利点も多かった。

クリスマス音楽会に向けて中等科のプログラムは、男女各々アンケート結果によって決まった讃美歌を、ウクレレと合唱で演奏することになった。1年生のウクレレは卒業生の平川冽氏に教員がご指導いただけることが決定打となって導入が決まったが、11月には実際に平川氏に來校いただき、生徒たちに直にレッスンしていただく時間も持てた。2年生はこれまでの学びを活かし、ウクレレ用にハ長調への移調譜を作成してくれた。

8月から9月と感染が拡大し自宅待機となった生徒たちと対面の授業が再開されたのは10月の中旬。合唱のパート練習はクラスごとに任せられ、リーダークラスである3年生が主体となった中等科の合同練習は数えるほどしか取れなかった。そのためリーダーシップを発揮しにくかったであろうが、歌詞の意味をよく味わい、丁寧に歌う姿を率先して示してくれた。

2022年度から始まる高等科のカリキュラム改訂によってコーラス授業がなくなる影響で、男女共に六学年全員で行う同声合唱は、次年度からできない可能性が強くなった。マスクをしながら歌うことは容易ではなかったが、みんなと共に歌える喜びに力が入った。クリスマス音楽会用の録画撮り当日、歌に込める思いは高学年になるほど特別なものであり、歌い終えた後には静かな余韻が会場を包んだ。女子部6学年演奏、中等科各部の演奏も11月から12月の月上旬に授業時間内で行い、撮影には前年からの指導を受けている撮影録音の係が関り編集まで行ってくれた。

また、この年は創立100周年の年であることから、高等科コーラスはいつ演奏を求められても良いように2年がかりで「天地創造」の曲に取り組み、聖書から意味や背景を学べる動画を作成したり、Zoomでも100人を超える合唱練習に挑んだ。しかし創立記念日前に歌詞をつけて歌うことは感染対策上許されず、ハミングで収録したものを動画編集し、生徒が画面に歌詞をつけたものを、明日館で行われた記念礼拝で流すこととなった。100周年の記念礼拝の最後にはグリー・コアグループのアカベラによる校歌「自由をめざして」の動画も流された。

この「天地創造」の演奏についてはコロナ前のプランでは、指揮者である梅田俊明先生にご指導いただき指揮もしていただきたいと思っていた。コロナ禍という思わぬ事態となったが、梅田先生には1回だけでもご指導いただくことが叶い、生徒たちは緊張しながらも、深い音楽性を実現す

るためには決して妥協を許さないプロの音楽に対する姿勢を垣間見る機会となった。3学期には、ドイツ語の歌詞付き合唱を高等科以上全員で再度の収録となった。有志の器楽演奏も加わり、色彩豊かな音楽が講堂に満ち溢れた。また、収録のために男女両部から担当生徒が出て、前日や早朝から機材を準備して撮影を行い、音声チェックや動画編集も行なった。係に手を挙げた人の中には歌うことには積極的でない人もいたが、実に生き生きと取り組んでいた。様々な立場で生徒が力を発揮した配信の音楽会となった。

感染対策では昨年以上に人との距離の厳密化を図り、講堂座席の並べ直しを毎日行った。吹奏楽部では体調不良者が数人出たため、収録を新年へと延期としたが、3学期の収録日に再度感染拡大がみられ、この年度に収録することはできなくなった。

この年度のクリスマス音楽会のプログラムは資料4として最後のページに掲載するが、礼拝の最後には「天地創造」の演奏を収録したものを流した。

また、この年の3学期に「探求」「共生学」の発表の機会として「学びの発表会」が4日間に渡って開催されたが、4日目には新たなタイプの音楽会を企画した。学校に来ることのできなかった時期に、家や寮で個人的に練習してきたものを聞き合う会とした。マスクをしながら「第九」のソロ練習をした人、全員では対面の合唱ができないので、各パート一人ずつのカルテット演奏をした人たち、ライヤー有り、クラシックギター有り、ピアノソロ有りと多彩な仲間の演奏に惜しめない拍手が贈られた。最後には弦楽の四重奏による久石譲作曲の「人生のメリーゴーランド」が流れ、しみじみとした演奏の中にそれぞれが不安と闘った日々を思い、感動の涙のフィナーレであった。

III、2022年度の音楽の学びと音楽会

この年は、前回の4年に一度の音楽会から4年後に当たるが、このような音楽会が開催される可能性は次年度以降になるとの方針が示されたため、新たな100年を歩みだす記念の音楽会には自由学園にとって縁のある「第九」の演奏をしたいと考え、前年度の3学期から音取りを始めていた。しかし、梅田先生はこの年をもってお引きになることを決意されたため、次年度以降の音楽会で「第九」を振っていただくことができなくなり、次年度の秋を完成目標にしていたプランも崩れた。4月から高等科は、「第九」の練習より

も、日本語で歌える同声合唱に力を入れることとした。

男子部では高等科2年のクラスを中心にグリークラブの数名と一緒にコンクールに出場して、少しでも以前音楽会で体験できたことが味わえるよう準備を始めた。自由曲は授業中にも各クラスで歌っている「一詩人の最期の歌」、課題曲「ぜんぶ」は解散後に個人個人に音取りをしに来る時間を作り、夏休みの最後5日間の合宿で仕上げ、出場を果たした。夏の前半の練習は、コロナ感染者が数人出たため合宿が中止になったり、Zoomレッスンで個別対応をしたりと、思うようには練習できなかったが、高等学校Bグループの中で銅賞を受賞することができた。女子部はコアグループが競争倍率の高いAグループで出場した。

梅田先生とは夏休み中にお話をして、2学期に「第九」だけに集中し、音取りを10月中旬に終わらせることを条件に「第九」の指揮をしてくださることをお約束いただいた。2学期は時間的にも過酷な練習が進んだが、実に有益な緊張感のある時間を高等科以上の生徒・学生は過ごし、ドイツ語にも関わらずみんな生き生きと歌いあげていった。本番の2日前に男子部が学校閉鎖となり、残念ながら梅田先生の指揮による「第九」は実現できなかった。生徒のほとんどが本気で取り組んでいた様子に、学園長はじめ各部の部長からも、日を変えて演奏してはどうかとご提案をいただき、2月にはティンパニーを加え、ソロも生徒・学生による演奏をすることができた。生徒の感想も最後に貼付した(資料⑤)。

なお、12月20日のクリスマス音楽会は礼拝に引き続き女子部生徒と学部学生のみで行われた。礼拝では、短期間で「探求」の時間にオルガン演奏の力をつけてきた6年生男子が、前奏と讃美歌の奏楽を担当した。音楽会は、最小限の収録映像と対面の弦楽演奏であったが、柔らかな時が流れるクリスマス音楽会となった。男子部生徒は各自宅で配信されたものを見ることとなった(プログラムは資料④)。

3学期には昨年に続き4日間に渡る「学びの発表会」がもたれた。音楽の「探求」ステージの前に、感染対策上クリスマス音楽会にはなるべくプログラムを短くするために入れられなかった各部高等科3学年による合唱演奏が行われた。女子部は松下耕作曲の「今年」、男子部は信長貴富作曲の「一詩人の最期の歌」を約1学期ぶりに歌った。音楽の「探求」ステージ発表にはオルガン演奏、声楽演奏3人、作曲作品演奏2人、コードの効果についての解説と演

奏の発表など、見ごたえのある発表ができた。

IV、最後に

コロナ禍を過ごす生徒にできるだけ毎年と同じような体験をさせてあげたいと願いを持ちつづけ、走り続けた2年間であった。音楽科教員にとって不得意であった電子機器の操作や、新たに使いこなせなければならない動画撮影、編集機器の操作、YouTube、Zoomの使用も現在ではスムーズとなり、努力がみのった。

歌うこと、息を使うことの多い教科ゆえの悩みは常にあり、感染の状況に応じた対応と工夫に迫られ、どの授業に於いても感染対策を意識しなければ歌えず、いつも何かに追い立てられているような不安感を持ちながら授業をしていた。しかしその緊張感は、新たな挑戦を容易にする熱源にもなっており、振り返ってみるとウクレレ導入や音楽会の代わりにコンクールに出ることや逆に校内で新たな枠組みの音楽会を企画・開催をするなど、新しい試みを実践することができた。これらができた背景には、音楽科が強いチーム意識を持っており、常に前向きに検討し合い、実践の助け合いをしてきたからだと思う。クラス単位の歌唱授業に於いては役割分担を明確にしたTTの在り方が特にコロナ禍では功を奏し、効率の良い授業展開につながった。

また、このような状況に置かれたことで改めて音楽の果たす役割や、みんなで歌えることの有難さ、心の安定効果、互いを認め合う中で成立する合唱の教育的意義などを知識レベルだけではなく身に染みて感じ、自分の教科を心から愛することができた。

このコロナの間に音楽の講師2人が辞めるに至った。残った教員は感染した者もいたが、概ね健康にも恵まれ一切学びを止めることなく、かえって多くの気づきをいただき、仲間と協力して前進できたことに感謝したい。

資料① 2020 年音楽会のお知らせと講堂の席割図

女子部・男子部・最高学部

保護者各位

2020 年 12 月 16 日

学園長 高橋和也

クリスマス礼拝・クリスマス音楽会のお知らせ

みなさまには平素より学園の教育にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

クリスマスも近づき、年間予定にてお知らせしておりますクリスマス礼拝と音楽会を、今週末に行います。今年度は感染症対策のため、事前に録画した動画の配信となります。

クリスマス礼拝は廣瀬薫牧師のメッセージです。なお、ウィンドオーケストラの演奏のみライブ配信を予定しております。

《日時》 2020 年 12 月 19 日（土）

礼拝 10 時 20 分～10 時 50 分 <https://youtu.be/hje5pkjDElQ>

ウィンドオーケストラ 11 時 10 分～

合唱・弦楽オーケストラ 11 時 25 分頃～12 時 20 分（予定）

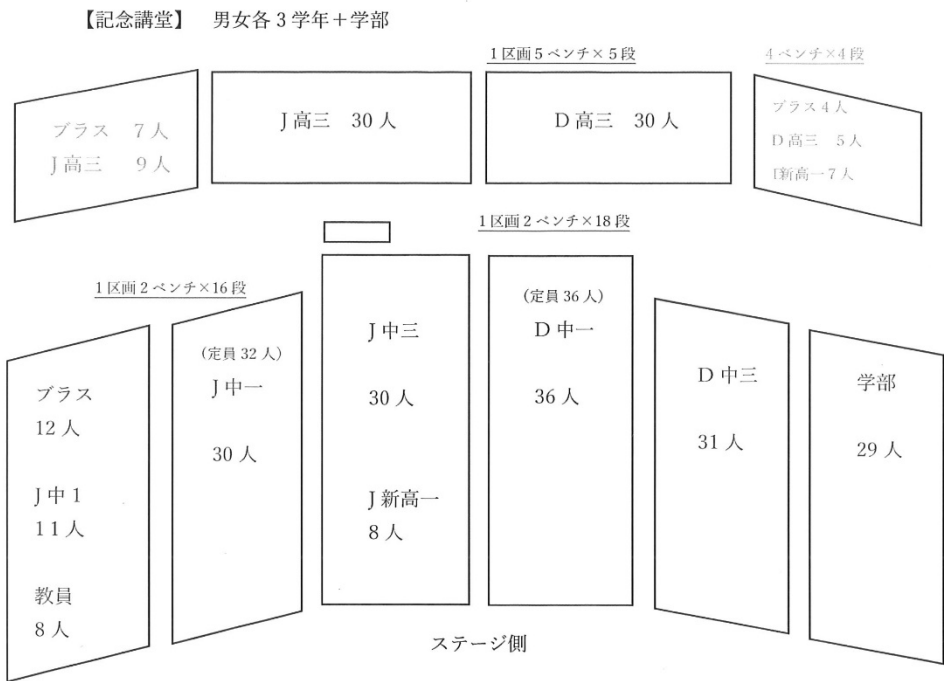
《配信について》

音楽会の URL 及びプログラムは前日に HP 上（ブログ）でお知らせいたします。

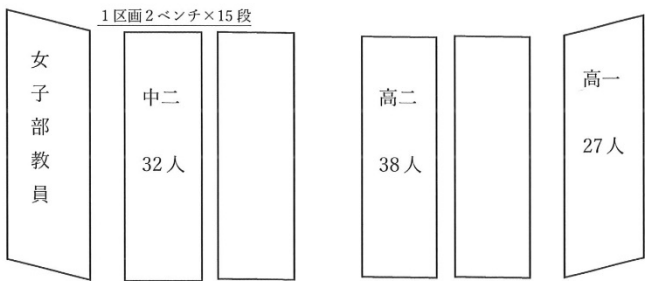
開始時間までは、ご視聴いただけませんのでご了承ください。終了後は年内中ご視聴いただけます。

なお、パスワードは 1812 です。

以上



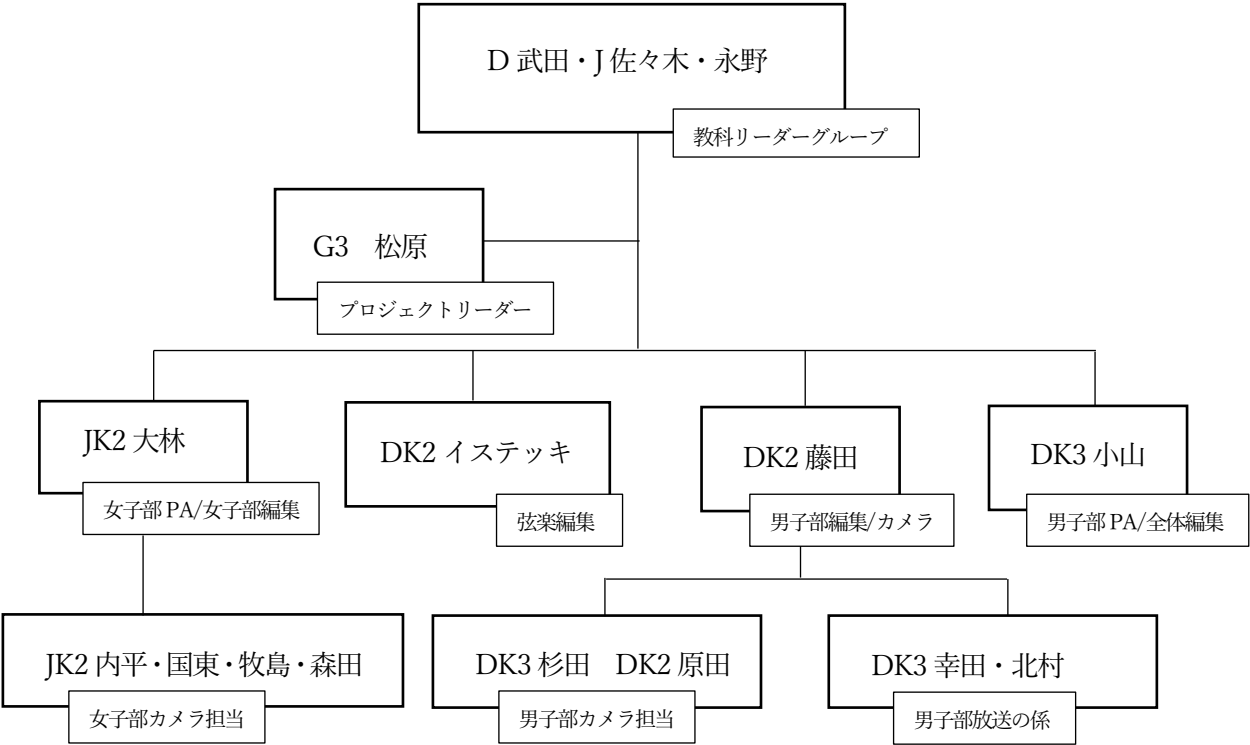
【女子部講堂】 中 2、高 2、高 1（内部進学生） ※配置は部内でお考え下さい



【男子部記念ホール】 中 2、高 2、高 1（内部進学生） ・教員はギャラリー
・テニスコート側：中二 35人 ・芝生側：高二 33人 ・白いテーブル：高一 28人

[illegible]

資料② 録画配信に関わる組織図



資料③ クリスマス音楽会録画日程表

日にち	撮影関連	授業場所関連
11月10日(火)	◎(8:00~9:50) 記念講堂に機材セッティング (※その際、プラグをさす場所がわかるようにコードに印をつけておく) ◎IV: 女子部高等科リハ撮り (※注意点①客席両端側はカメラより外側になるため立ち位置に使わない ②マイクの集音具合をすぐにチェックしておく)	学部: 裏側音楽室 弦楽: 女子部講堂
11月11日(水)	◎IV: 男子部中等科 本番撮り (※集音が悪かったら12月9日(水)へ延期)	
11月13日(金)	◎V: 女子部中等科 記念講堂で立ち位置確認 (※授業最後の10分間に、高等科の撮影隊も参加してリハ撮り) ◎機材撤収 (※復元できるように印付けを確認してから撤収すること)	
11月17日(火)	(探求のため高等科コーラスは無し)	学部: ステージ 弦楽: 女子部講堂
11月20日(金)	(女子部中高等科: 野の花祭)	
11月21日(土)	(記念講堂はLA100名使用)	
11月24日(火)	◎VI+20分間: 男子部中高等科コーラス@記念講堂	女子部高等科: 体操館 学部: ステージ 弦楽: 体操館 (梅田先生)
11月30日(月)	◎機材セッティング (解散後)	
12月1日(火)	◎VI: 女子部高等科 本番撮り (※授業終了後、高等科生でベンチを後ろに下げる)	学部: 裏側音楽室 (※ステージ下で並びをやってから移動) 弦楽: ステージ下
12月3日(木)	◎VII: 女子部中等科 本番撮り ◎解散後: コアグループ 本番撮り (※終わり次第機材撤収)	

12月8日(火)		学部: ステージ 弦楽: 体操館
12月14日(月)	◎解散後、機材セッティング	
12月15日(火)	◎III~IV: 男子部6学年+グリークラブ 本番撮り	学部: 裏側音楽室 弦楽: ステージ下 (梅田先生)
12月18日(金)	◎プラス活動日+本番のためのセッティング	
12月19日(土)	◎朝: 機材セッティング (プラス生中継+プラス終了後プロジェクターとスクリーンを設置) ◎11:00~12:20: クリスマス音楽会 (※終了後全てを撤収)	
	《プログラム》 1. プラス「セント・フローリアン・コラール」「バッハ」11'00" 2. 女子部中等科「いのちの歌」5'00" 3. 男子部中等科「きけや愛の言葉」5'00" 4. 女子部高等科「ぜんぶ」4'00" 5. 男子部中高等科「信じる」7'00" 6. コアグループ「きよしこの夜」「世の人忘るな」5'00" 7. グリークラブ「天使のいる構図」より「ファイナル」6'00" 8. 学部コーラス「自由をめざして」4'00" 9. 弦楽オーケストラ「ワルツィングキャット」「ハンガリー舞曲」「管弦楽組曲」より「IIIアリア」15'00"	

資料④ 各音楽会のプログラム(2020)

《プログラム》

1. プラス「セント・フローリアン・コラール」 「バッハ」 11'00"
2. 女子部中等科「いのちの歌」 5'00"
3. 男子部中等科「きけや愛の言葉」 5'00"
4. 女子部高等科「ぜんぶ」 4'00"
5. 男子部中高等科「信じる」 7'00"
6. コアグループ「きよしこの夜」 「世の人忘るな」 5'00"
7. グリークラブ「天使のいる構図」 より"フィナーレ"6'00"
8. 学部コーラス「自由をめざして」 4'00"
9. 弦楽オーケストラ
「ワルツィングキャット」 「ハンガリー舞曲」 「管弦楽組曲」 より"IIIアリア"15'00"

クリスマス音楽会プログラム

2021 年 12 月 20 日

- 1 讃美歌 112 番「もろびとこぞりて」
女子部中等科 指揮 永野馨先生
ウクレレ演奏 1 年
合唱 1、2、3 年
- 2 讃美歌 367 番「たくみのわざをば」
男子部中等科 指揮 武田若菜先生
ウクレレ演奏 1 年
合唱 1、2、3 年
- 3 「いのち」 古木涼子作詞・作曲/町田治 編曲
女子部高等科・中等科
指揮 永野馨先生
- 4 「心の瞳」 荒木とよひさ作詞/三木たかし作曲/横山潤子編曲
男子部高等科・中等科
指揮 武田若菜先生
- 5 「こころのうつわ」 覚和歌子作詞/横山潤子作曲
女子部コアグループ
指揮 永野馨先生
讃美歌第Ⅱ編 「世のひと 忘るな」「ひいらぎかざろう」
女子部コアグループ・男子部グリークラブ
“Preghiera” Giuseppe Torre 作詞/Gioachino Rossini 作曲
男子部グリークラブ
指揮 武田若菜先生
- 6 バレエ組曲「くるみ割り人形」より
中国の踊り、葦笛の踊り、花のワルツ P. I. チャイコフスキー作曲
「宝島」
和泉宏隆作曲 ウィンドオーケストラ
指揮 佐伯正則先生
- 7 ボカリーズ ラフマニノフ作曲
カノン パッフェルベル作曲
弦楽オーケストラ
指揮 梅田俊明先生
- 8 学部 1 年生の学び（学部生作成劇の案内）

資料④ 各音楽会のプログラム(2022)

2022 年 12 月 20 日 クリスマス音楽会

当日のプログラム

(男子部は学校閉鎖につきオンラインで視聴) ※

【録画プログラム】

- | | | |
|-----------------------|---------------------------|--|
| 1) 女子部中等科 | 讃美歌 368 番「つとめいそしめ」ウクレレと合唱 | |
| | 未来へ | 谷川俊太郎作詞・信長貴富作曲 |
| 2) 男子部中等科 | 讃美歌 106 番「あらのの果てに」ウクレレと合唱 | |
| | 平和の鐘 | 前奏のみ中 3 クラスの編曲
仲里幸広 作詞作曲 |
| 3) ウィンドオーケストラ | バンドのための民話
宝島 | |
| 4) コア | ある真夜中に
笑いのコーラス | 瀬戸内寂聴 作詞 千原秀喜 作曲
ウィリアム・ブレイク作詞
宮田映子訳詞 横山潤子 作曲 |
| 5) グリー (高 2 の有志 26 名) | 平林
一詩人の最期の歌 | 落語より作詞 大中 恩 作曲
H.C.アンデルセン作詞 信長貴富作曲 |

【対面プログラム】

- | | | |
|-----|--------------------------------------|-------------|
| 弦楽 | 弦楽のための組曲 | J.ラター作曲 |
| | 1. A Roving | |
| | 2. I Have A Bonnet Trimmed with Blue | |
| | 3. O waly waly | |
| | 4. Dashing Away | |
| カノン | | J.パッヘルベル 作曲 |

資料⑤「第九を1年間練習してきた感想」 2023年1月

《高等科1年》

- ・練習が始まったばかりの頃は、あまりの難易度の高さに、いったい完成形はどうなるのかと不安がいっぱいだった。さらに女子部の高1は、週に一回しか授業がないのも非常に不安だった。コアで独唱の練習をするときも、自分だけなかなか覚えられず、ひどく劣等感を感じたりもした。それでも、クラスメイトとちょっとずつ練習して頑張った。良い経験だった。
- ・楽しかったです。はじめはドイツ語の難しさに心が折れていましたが、上手な人の隣にいたり、自分なりに頑張りました。ドイツ語の単語テストなどをする中で、歌うことへも少し余裕が生まれ、何を言っているのかも合わせて楽しんで歌うことが出来たと思います。
- ・あまり練習時間がない中での練習でした。しかし少ない合同練習の機会でも、頑張って練習できていたと思います。楽譜がなくても歌えるようになったので、本番まで忘れないように練習したいです。ドイツ語で歌うことにも慣れることができたので、この貴重な機会を忘れないようにしたいです。
- ・第九を1年間通して習ってきて、クラシックの難しさをとても感じました。今までの音楽で歌ってきたものは、そこまで強弱やテンポに対して考えながら歌ったり、楽譜に書き込みながら取り組むことがなかったので、とても学べたなと感じる1年だったと思います。私は、昔、ピアノを習っていて、今は趣味程度でしかピアノにさわってなく、楽譜を見ていなかったのですが、今回、楽譜の読み方が少し勉強できたこともあって、弾いてみたかった曲を楽譜を見ながら弾いてみようと思えました。高音のところの声の出し方など、普段はできないようなことも学べて楽しかったです。
- ・高音の出し方や感情の入れ方を学べたと思います。高校生の内に世界的に有名な歌を、梅田先生の指揮のもと学べてとても光栄でした。
- ・第九のコーラスは、中等科3年から始まり、現在まで長い時間をかけて取り組んできた。はじめと今とは出来が全く違うが、上手な人と一緒に歌うと、自分はまだまだだと感じる。
第九で難しかったところはたくさんあるが、主に4つある。一つ目は、リズムだ。部分ごとに全く違うリズムで、速度も全く異なる。ページをめくるとすぐにゆっくりになったり、とてもリズムのとりにくい箇所があったりしてリズムには一番苦労したと思う。
二つ目は音で、第九は本当に難しい曲だと思った。アルトパートだったのだが、アルトは音がわからなくなってしまうことが多かった。4声に分かれるため、その時点で難しく、更に曲が長く、取りにくい音も多い。今でも十分に音の取れない部分もあったりする。三つ目は、音の高さと強弱だ。高音が長い間つづく部分、強く強く歌う部分はとても大変だった。第九は強弱にとっても差があるため、聴くのは気持ちが良いが歌うのは難しかった。四つ目は歌詞だ。はじめの方は得に歌詞が難しいと思った。はじめは覚えることが難しく、次は「Millionen」や「Sternenzeit」など長い単語を切らずに歌うことも大変だと思った。一方で、日本語ではなくドイツ語で歌ったことで、歌詞にもあるような世界との繋がりを感じることもできて充実したものとなった。このコーラスを通して、自分に思うことは、よく頑張ったということ、そしてもう少し力を出せたらよかったということだ。2月中の第九の発表に向けて精一杯力を出していこうと思う。

- ・ 中等科で初めて習った時は、歌うことに必死で特に何も考えずに歌っていましたが、高等科に上がると2年目ということもあり、少し余裕をもって歌うことができました。
細かい箇所を指摘されることが多く、自然と意識しながら歌えていたように思います。高等科2年で歌うことがあるかはわかりませんが、2年かけて歌ってきた第九を発表の際に大切に歌えれば良いなと思いました。高等科1年は練習時間が少なく、わからない所も多いので、もっと時間をかけて練習できれば良かったと思う反面、2年かけた歌をもっと歌いたかったなと思いました。
- ・ 初回の授業で高等科の中等科進学生が、第九の1連目である部分を悠々と歌っていて驚いたのを、今でも覚えている。1連目を習わずに、5連目である部分をゆっくり少ない時間の中、練習し続けてきたが、約1年間で知らない言語の歌を、頭に浸透させることができて嬉しい。アルトパートは、音程を取るのが難しく、ソプラノにつられて迷子になり、声量も負けてしまうことがあったが、歌唱テストなどを通して、音程にも自信がつくようになり、ソプラノとの音の重なりも感じながら楽しく歌えるようになった。最初は全然わからなかった歌詞の意味も、今はわかるようになり、カタカナ表記だけの暗譜でなくなったのが良かった。14日の発表では、今までの注意ポイントに気を付けて音楽を楽しみたい。
- ・ 1年間第九を練習してきて、とてもこの曲への印象が変わりました。歌う前は堅苦しい有名な曲といったイメージでした。ですが最近では、無意識に歌っているくらい、楽しいテンポの曲というイメージに変わりました。生きていく上で良い経験になりました。
- ・ 第九のコーラスが始まると知った時は、初めてのコーラスだったが、有名な曲で好きな曲だったので嬉しかった。けれど、やってみるとパートが分かれていて、ドイツ語で、声も出なくてとても不安になったけれど、声が徐々に出てきて、歌えるパートが増えていくと楽しくなった。高等科と学部全体で記念講堂に集まり歌うときは、少しずつ曲になっていくのが毎回楽しみだった。クリスマス音楽会で歌うことが出来なかったのはとても残念だけれど、発表に向けてもっといい曲にできるよう残りの練習も頑張りたい。

《高等科2年》

- ・ クリスマス音楽会ができなかったのがとても残念でした。しかし、梅田先生に直接ご指導していただけて、久しぶりにみんなで歌うことができて楽しかったです。来年こそは、きちんとマスクをはずしてクリスマス音楽会でみんなで歌いたいです。
- ・ 1年前は同じドイツ語の天地創造を歌ったけれど、だいたい同じ歌詞であり苦労しませんでした。第九は音程を取るのも難しい上に、慣れないドイツ語ばかりで、歌い始めたときは、本当に歌えるようになるのかと心配だったけれど、毎回の授業とコーラスを頑張ったら、だんだんと楽しくなって、音程もリズムも取れるようになって良かった。場所によっては全然歌えないところもあったけど、今は完璧とまではいかなくとも、歌えるようになったので、練習を続けることの大切さがわかった。クリスマス音楽会で歌えなかったのが残念だけれど、14日に改めて発表する場があって良かったなと思った。これからも歌うことを続けていきたい。
- ・ コロナ禍で大変な部分もありましたし、男子部生と合わせて4パートで歌える回数もあり多く取れませんでした。高等科1年生以下は、カリキュラムが変わるのでコーラスはできないと聞きましたが、来年まではしっかりコーラスができるとうれしいなと思います。第九はソプラノパートが高くて大変でしたが、音が出た時は嬉しくて、楽しんで取り組めたと思います。次は「ハレルヤ」を歌えたらいいです。

- ・初めに聞いた時は有名な部分しか知らなかったのですが、本当に歌えるようになれるか不安でしたが、今では口ずさんでしまうくらいに馴染んでしまって嬉しいです。合唱の部分も独唱の部分も難しい所が多いですが、楽しんで自信を持って歌えることが大事だと思うので、不安にならず歌ってみたいです。
- ・第九をこの1年間練習してきましたが、こんなにも本格的というか全力で取り組んだ曲は初めてで、この曲はとても難しかったですが、だんだんと歌えるようになると楽しんで歌うようになり、私はこの部分が好きだというお気に入りの箇所が出来たりして、第九を歌い始めたときとは大分印象が変わりました。第九を練習し始めて第九以外のクラシックにも興味を持ち、よく聞くようになりました。クラシックはなんだかそっと人の気持ちに寄り添ってくれるような気がします。歌詞がないから気負うことをせず聴くことが出来るからなのでしょう。少し話題が逸れてしまいましたが、私がこの1年間練習してきた中で感じたことはこのようなことです。
- ・この1年以上やってきた第九では、初めは長く、分からない言葉で覚えられず、心から楽しいと思えなかった。しかし、コアの人たちが必死に練習しているのを見たり、段々と覚えられるようになると、楽しいと感じるようになり、やりがいを感じた。また、ハイドンの時には分からなかった、学部の人の影響を沢山受け取る良い機会になった。もうすぐで発表になるので、皆が楽しく気持ちよく歌えると良いと思う。
- ・最初はドイツ語の歌なんて歌えるわけないと思っていたのですが、歌ってみれば、意外といけたもので、歌詞はほとんど歌えるようになりました。ただ音程がまだわからないところがあり、たまにソプラノにつられて変な音程で歌ってしまうことがあるので、そこをしっかりと歌えるように頑張りたいです。コーラスの後にたまに、教室でみんなで歌いながらワイワイするのが楽しいので、音楽の授業は得意ではないけれど、頑張って取り組みたいです。
- ・最初は単語の意味や楽譜の記号の意味などはあまり分からずに歌っていましたが、単語テストやコーラスの授業を通して、しっかり意味を理解して取り組むことは、とても大切なことなのだということが付くことができました。パートが4種類あるということもあり、他のパートとの調和を意識することが難しかったですが、音がきれいに重なるととても気持ちが良かったです。様々なことがあるこの時代だからこそ、音楽を通して世界中の人々がつながることができるということを、この歌は伝えてくれているような気がしました。毎回のコーラスの授業での学びを2月14日の本番で出せるようにしたいと思います。
- ・第九は、小学生の時に日本語で歌ったことがあったり、とても有名な曲なのでいろんなところで聴いたことのあるメロディーではありましたが、速いテンポの曲なので、ドイツ語でうまく歌えるかなと心配が大きかったです。ですが、いざ歌ってみると本当に楽しかったです。前奏から人を引き込むための工夫が凝らされていて、構成が素敵な曲だなと思いました。一度歌うと、頭から離れなくて、後片付けのときや、教室でクラスのみんなと誰かが歌い始めてはそれにハマって、皆でよく歌っていました。授業の時も、なるべく前の席で先生の指揮や指示がよく見聞きできるところに行こう等と、積極的な学ぶ姿勢が取れたことは自分でもよかったことなのかなと思います。ソプラノは、高音で音取りが難しいですが、最近では楽譜を離して歌えるようになったので、この調子で頑張りたいと思います。永野先生がおっしゃっていた、一度歌ったら歌詞も忘れない、この曲で世界の人とつながることが出来るという言葉を胸に、この一年、第九を頑張ることができました。いつかそれが、実感の出来る日がくればいいなと思います。

- ・初めて第九の楽譜を見た時、こんな所まで音符は動けるのかと衝撃を受けた。聴き馴染みのある音楽と、出る筈もない高音で半ばあきらめかけていた私は、音楽の授業のたびに申し訳ない気持ちになっていた。先生方の言葉から、第九を皆で歌う事への想いと私たちへの期待を感じた。それでも声はかすれ、息は続かなかった。自分のことに精一杯で、周りを見れていないと気づき、ふとクラスを見回すと、マスクを持ち上げながら綺麗に歌うコアグループの友人、必死に楽譜を追う友人、先生のピアノに感激する友人、それは楽しそうに歌う友人、そしてつまらなそうに隣の人と話す友人。私はどうだろう。あきらめてはいないだろうか、私には出来ないと努力を忘れてはいないだろうか。そう自問し、自分を恥じた。結果ではなく、そこに行きつく為の道を一步一步進むことのできる人でありたいと心に刻んだ。だからと言って、急に歌えたわけではない。毎回の授業で、大きな声で歌い、思いっきり息を吸う、その繰り返しによって、今では高音も気持ちよく歌える。もちろん、声出しを怠ると音は出ないし息苦しい。それでも第九を歌うことが、私にとって歓びである。
- ・最初はドイツ語読めないし、サビ以外聴いたことないしで不安で、やっていくにつれても、ソプラノの音が高くて難しかったりして大変だったけれど、練習で4声で合わせたときの声のハモリ具合が好きで、単語も知っていつて歌詞の良さを知ったりで楽しくなった。ドイツ語は英語と似ていることが多くて、これはこの単語かなーと想像するのも楽しくて、ドイツ語に興味を持ったし、話せるようになったので嬉しかった。
- ・第九は小学3年生の時に、ピアノ教室の発表会で歌ったことがありました。その時は楽譜もカタカナで歌詞が書かれたものが渡され意味も歌い方もわからないまま歌っていました。8年ぶりに歌うことになり、今回は楽譜もドイツ語で、梅田先生のご指導も入り本格的で歌ったことあるのに初めて歌う曲のように感じました。自分が思っていたより難しく何度も挫折しそうになりましたが、今は歌い始めたころよりずっとうまくなって少し嬉しいです。人生で2回も歓喜の歌を歌うことができてとても光栄なことだなと思います。
- ・高1以下は、コーラスがなくなるので、最後の学年として、精一杯歌いたい。
- ・第九は、今まで歌ってきた合唱曲とは明らかにレベルが違い、本当にこんなものが歌えるようになるのかと始めは戸惑っていましたが、今ではソロも歌えるようになるほど成長することができました。そして、この歌は大勢で歌うことでより歓びを伝えられる歌なのかなと思いました。皆の歌声が響き合って完成した合唱を聴くと、とても楽しい気分になって嬉しかったです。
- ・第九に1年間取り組み、私は今、周りの方々と自分との結びつき(?)が強くなったことと、自分の成長を少しですが感じています。まだ楽譜を頂いてすぐの頃は「なんか聞いたことがある曲だ」とか「楽しそう!面白そう!」としか思っていませんでしたが、いざ練習が始まると、練習するにつれて皆、顔がけわしくなり、マイナスな言葉や態度を見聞きすることが増えていきました。中盤では皆の雰囲気にも飲まれ、私もなんだか第九に対して後ろ向きになっていきました。もともと簡単なものではなかったですし、その時の体調や色々の変化もあり、楽譜を開くのも嫌だと思っていた時もありました。ですが、梅田先生のご指導や先生方の第九に込めた熱い思いやコアグループの仲間がいることなど色々なことが重なり、また前向きに取り組もうと思うようになりました。又、時間が経つにつれて第九に対して持っていた緊張のようなものが緩み、探求などの力もあつてか、1年前よりも成長できたのではないかなと思います。ですがそれに酔って努力を忘れないようにします。第九に(合唱の中には)“兄弟”という言葉が多く出てきます。個人的にはそのたびに暖かい気持ちになります。“歓喜”を交響曲にしたベートーヴェンも、ベートーヴェンの心に残る詩を書いたシラーも、それを生み出した時代や人々も、全てに憧れと尊敬を持ちます。2月14日は少しでも聴いている方々にこの思いが伝わるよう、全力で歌い切ることができるように、今できることをできる限り行おうと思います。

- ・1年間、交響曲第9番をコーラスで歌ってきて、最初はドイツ語の発音や、どうやって気持ちを込めるかが、とても難しかったのですが、今ではどの部分で気持ちを込めるかなどが分かるようになってきました。この曲の翻訳を見たときに、沢山の意味が込められていることを知り、この曲を練習できてよかったなと思うことができました。

《高等科3年》

- ・第九を歌えると知ったときは、嬉しいと同時に難しい曲を歌えるのかどうか不安だった。実際に歌ってみるとドイツ語の発音はもちろん、音程を取るのが難しくてなかなか歌えなかった。けれど練習を重ねるごとに少しずつ歌えるようになり、他のパートの音も聞けるようになった。特に二重フーガは、初めての時は混乱しか感じなかったが、今は4声の音を少し楽しめるようになってきた。梅田先生のご指導は厳しくハードな一面もあったけれど、コーラス全体がぐっとレベルアップするのが感じられ楽しかった。楽譜をもらったとき、第九を覚えればずっと歌えるとなると教わった。その時は半信半疑だったが、今は皆がふと口ずさむところに出くわしたり、自分でも歌ったり、ふときいたときに前に練習したところだとわかったりすると、本当だったのだと思う。皆で一生懸命練習して身に着けたことは、自分の力になっていると感じている。
- ・私は歌うのが得意ではなく、音楽の授業も心から楽しんで歌えた経験があまりなかった。しかし、一年間という長い時間をかけて歌い続けてきた第九は音を外す心配もなく、自信を持って歌うことができた。この1年で合唱をするのが苦でなくなったし、歌うのが楽しくなったのは私にとって大きな転換期だと思う。第九は世界中で歌われる曲であり、これが歌えるようになったからには海外に行った暁には、言語の違う人々とも一緒に歌うことができるんだな、と思うと楽しい気持ちになる。この今後に残る財産があるだけで私は1年コーラスを取り組んでよかったと思える。
- ・高2の時から長い期間、第九のコーラスに取り組み、初めはよく知られている部分のみ楽しんで歌っていたのですが、何度も練習を重ねていくことで、あまり知られていない部分で、自分の好みの場所を発見したり、授業以外でも口ずさんでしまったりと、とても愛着が湧いてきました。外国語ならではのかなと思います。歌詞の意味が調べないと分からないからこそ、先入観なくリズムやテンポを感じることができ、曲にあきることがありませんでした。梅田先生にも指揮していただき、貴重な体験でした。
- ・今、世界で起きているウクライナとロシアの戦争、コロナウィルスでの人々とのつながりが感じられないこと、対立や分断の中にいる私たちにとって希望を捨てないこの歌詞には、惹き付けられるものがある。人類が連帯し、価値観の違いを越えて、世界平和という同じ目標に向かえば、どんなに今、過酷な状況にいたとしても一つになることができる。だから皆、兄弟となる、その喜びを兄弟たちと分かち合う、それが“歓び”なのだと私は解釈した。歓びの実現には兄弟が必要なのだと。
レポートに取り組んで、歌詞を自分なりに解釈してみることで、曲への理解が深まった。ベートーヴェンがどのような気持ちでこの曲を作ったのか想像してみることで、何も知らない時と違って「ここはこういう意味だから」こう歌おうと考えながら歌うことができた。世界で今起きていることが少しでも良くなってほしいと願って歌いたい。その願いを共有し、兄弟たちと歌う、その喜びを噛み締めたい。
- ・一言でいうと非常に難しかった。苦戦点は単語の意味と発音を習得すること、梅田先生に指摘された周りの音を聴きながら自分で拍子をとって歌うこと、そして何よりも高音を出すことだ。しかし、苦戦しながらも授業やコアで練習しソロの部分まである程度歌えるようになったことは良い経験になったし、自信にもなった。

・最初はこんな長いドイツ語を覚えられるわけがないと思っていたが、今ではクラスの誰かが自分も歌ってしまう、また自分も急に口からザイトゥムシュルンゲンと出てくるのが何度かあった。また、生活にもたらした影響は別のところにもあった。例えばテレビで第九が流れていたら反応してしまったり、前まではソプラノしか聞こえなかったのが、アルトメインで聴こえるようになったりと。

いつか、海外に行って第九を歌う機会がやってきた時に誇らしげに暗譜で歌って、周りの人を驚かせたい。できない、難しいと思っていることもちりもつもればで、きちんと継続すればできるのだと実感できた経験だった。

・「あの第九を歌うのか!」「本当に歌えるのだろうか」という期待と不安のどちらも抱えながら練習してきた。自分はソプラノになったが、元々あまり高音が得意でなかったのと、メロディーによりアルトの低音を歌ってみたかった希望もあって、最初は気が乗らなかった。しかし、練習を重ねるごとに段々と歌えるようになり、新たに歌う楽しさを見つけることができた。ドイツ語を読むこと、歌詞の意味を知ること、梅田先生の指揮などなど、第九という曲を通して、普段はなかなか触れる機会のない「本物の音楽」を肌で感じることができ、とても嬉しかった。貴重な経験をさせていただいた。再来週には、待ちに待った合唱が実現するので、精一杯頑張りたい。